

平成 23 年（2011 年）4 月 19 日

報道各社 様

円山動物園ニュース

「は虫類・両生類館」今週末いよいよオープン！

一足早く、内覧会も開催します！



マツカサトカゲ



ヨウスコウワニ（幼体）

いよいよ、「は虫類・両生類館」が4月23日（土）にオープンします。現在、オープンに向けて、急ピッチで作業を進めているところです。

オープン前、4月21日（木）午後2時から報道各社様向けに内覧会を開催いたします。すべての展示動物が揃っていない可能性もありますが、一足早く、新施設に移動した、は虫類、両生類の魅力をお伝えいたします。なお、オープン当日は、以下のとおりオープニングセレモニーを予定しておりますので、ぜひご参集ください。

【は虫類・両生類館オープン日】

日時：平成23年4月23日（土）午前10時からオープニングセレモニーの後一般公開開始

セレモニー開催場所：は虫類・両生類館前

～オープニングセレモニー次第～

- 1 開式のことば
- 2 利用者休憩用椅子の目録寄贈（札幌まるやまライオンズクラブ会長）
- 3 感謝状贈呈（札幌市長）
- 4 市長挨拶
- 5 札幌市立大学挨拶（原田学長）
- 6 テープカット
- 7 閉式のことば

【は虫類・両生類館報道各社様向け内覧会】

平成23年4月21日（木）午後2時から（1時間程度）

※は虫類・両生類館前にご集合ください。職員がご案内いたします。

《参考》

【施設の名称】

は虫類・両生類館

【総工費】

約 4 億 1210 万円

【建築様式】

構造：RC 造一部鉄骨造、地上 2 階地下 1 階建 延床面積：約 924 m²（1 階展示部分 630 m²）

【建設場所】

既存「は虫類館」西側

【主な展示動物と展示種数】

大型展示ゾーン：ガビアルモドキ、ヨウスコウワニ、アルダブラゾウガメ、サイイグアナの 4 種類

小中型展示ゾーン：アメリカドクトカゲ、アオホソオトカゲ、パンサーカメレオン、コウヒロナガクビガメ、アオダイショウ、コバルトヤドクガエルなど約 40 種類

【施設の主な特徴】

○植栽や擬岩、演色性の高い照明等の導入により、展示動物の生息地にあったレイアウトを施し、来園者の高揚感を創出するとともに、美術品を鑑賞するような静かで落ち着いた空間構成になっています。

○展示スペースは、熱帯、亜熱帯、日本・温帯と生息地に合わせた展示を行う「小中型展示ゾーン」と大型の動物を展示する「大型展示ゾーン」からなります。さらに、バックヤードを公開型とすることで、動物が孵化する様子なども観察することが可能です。

○動物種それぞれが必要とする光・温熱・空気・水環境の変化を、年間を通じて適切に管理することで、展示しながら冬眠・繁殖などが可能となり、種本来の生態を伝えることができます。特に、温熱・空気環境の制御については、これまで強制対流型空調システムが一般的でしたが、本施設では、生き活きとした生態展示・繁殖計画に配慮した「放射暖房システム」を採用しています。

○太陽光発電パネル、通路空間における LED 照明、ペレットボイラーの設置に加え、ハイサイドライトによる昼光照明、太陽熱による自然暖房、外断熱工法・低温放射暖房による冬季の暖房負荷低減、円山地域の季節風を利用した夏季の高窓換気システムなど、省資源・省エネルギー技術を積極的に採用しています。

○地上 2 階部分は、バックヤード及び植栽管理を行うキーパーラーフ、地下 1 階部分は、動物の餌となるコオロギとネズミの飼料室及び検疫室などからなります。

【施設のデザイン】

新「は虫類・両生類館」は、札幌市立大学デザイン学部の多大なるご協力をいただき、建築および環境設備システムの計画を進めるにあたり、「建築環境学」の知見を取り入れた施設となっています。

建築環境学：人間にとって最も身近な環境空間である（建築環境）を対象にして、そのほどよい状態とは何か、また、ほどよい状態を実現するには光・熱・空気の流れをコントロールする照明や暖房・冷房・換気システムをどのように構成したらよいかを明らかにする学問領域。本施設の計画では、人間だけでなく、は虫類・両生類の生態を対象にして、そのほどよい物理環境の実現を目指している。

【現行施設との比較】

	名称	一般公開日	床面積	展示数
新施設	は虫類・両生類館	平成 23 年 4 月予定	630 m ² （1 階展示部分）	約 60 種 120 点
現行施設	は虫類館	昭和 49 年 6 月	600 m ²	約 10 種 30 点

問い合わせ先：札幌市環境局円山動物園飼育展示課 柴田・山本

TEL 6 2 1 - 1 4 2 6 FAX 6 2 1 - 1 4 2 8